

愛知県の歴史地震と土砂災害

今村隆正(株式会社 防災地理調査)

§ 1. はじめに

筆者は、日本全国の歴史時代に発生した土砂災害の調査研究を続けている。本発表は、愛知県において、歴史地震を誘因して発生した土砂災害には、どのような事例があるのかについて、追跡調査を行った結果を発表するものである。

愛知県は日本のほぼ中央に位置し、東西約106km、南北約94km、面積は5169 km²である。

地形は、西北部に尾張丘陵、東部及び北東部には三河山地在、西部には濃尾平野、中部には岡崎平野、東部には豊川平野、南部には知多半島と渥美半島があり、その間には三河湾、三重県との間には伊勢湾がある。

地質は、県東部を流れる豊川に沿って、中央構造線により西南日本内帯、西南日本外帯と区別され、豊川以北には新第三紀、第四紀の堆積岩類、領家帯の花崗岩類、以南には三波川帯の結晶片岩が分布し、丘陵地の古生層周辺には広く砂岩泥岩を主体とする洪積層が分布する。

気候は、太平洋側気候区に属し、太平洋に面した県南は、梅雨期や台風が接近・通過する時には大雨になることがある。

§ 2. 愛知県に被害を発生させた歴史地震

愛知県に被害を発生させた地震は、主に南海トラフで発生する海溝型巨大地震が多く、内陸地震においても、天正地震(1586)や濃尾地震(1891)といった国内最大級の内陸地震に見舞われている。

規模の大きな地震も多く、そのうちM7.5以上の被害地震のみを挙げても以下のとおりであり、全国的に見ても、被害地震の多い県である。

- (1) 天正十三年十一月二十九日 (1586.1.18)
天正地震 (M7.8±0.1)
- (2) 慶長九年十二月十六日 (1605.2.3)
慶長地震 (M7.9)
- (3) 宝永四年十月四日 (1707.10.28)
宝永地震 (M8.6)
- (4) 安政元年十一月四日 (1854.12.23)
安政東海地震 (M8.4)
- (5) 安政元年十一月五日 (1854.12.24)
安政南海地震 (M8.4)
- (6) 明治 24 年 (1891) 10 月 28 日 濃尾地震 (M8.0)
- (7) 昭和 19 年 (1944) 12 月 7 日 東南海地震 (M7.9)
- (8) 昭和 21 年 (1946) 12 月 21 日 南海地震 (M8.0)

§ 3. 愛知県の土砂災害の歴史

表1及び図1に、愛知県において、歴史時代に発生した主な土砂災害事例を示す。

表 1 愛知県における歴史時代の主な土砂災害年表

| 発生日月 | 誘因 | 災害発生地点 | 被害概要 | 位置 |
|----------------------------|----|-------------|--|----|
| 1767.8.4~6 明和四年七月十日~十二日 | 降雨 | 瀬戸市 赤津 万徳寺前 | 赤津万徳寺前が山崩れし、赤津川を堰止め、赤津村は沼状となり、後に決壊し下流の山口や菱野では多数の死者と家屋流失。この時、雲興寺門前の付近や猿投山も崩壊した。 | ① |
| 1904 明治37年5月27日 | 降雨 | 設楽町 折立沢谷 | 設楽町折立沢谷の山崩れ、8戸が被害を受け、死者8人。 | ② |
| 1903 明治37年7月10日 | 降雨 | 新城市 海老町 四谷 | 南設楽郡海老町四谷で山崩れ、死者11人、負傷者4人、家屋流失6戸、全壊5戸、山崩運難供養塔建立。 | ③ |
| | | 設楽町 三都橋 | 北設楽郡段嶺村三都橋で山崩れ、死者3人、住家全壊4戸、半壊5戸。 | ④ |
| 1906 明治39年7月16日 | 降雨 | 豊田市 桑原 | 北設楽郡武節村桑原で山崩れ、高さ140m幅50m、家屋全壊1戸、死者5人。 | ⑤ |
| 1932 昭和7年8月8日 | 降雨 | 瀬戸市 泉町 | 名古屋と多治見を結ぶ狭い地域に集中豪雨があり、高蔵寺・志段味方面の山では山崩れなどで山容が一変した。瀬戸市泉町では、土砂災害による死者22人、慰霊碑が残る。 | ⑥ |
| 1957 昭和32年9月7日 | 降雨 | 設楽町 栗島 梅久後 | 栗島の梅久後地内で約2町歩の山崩れ、3,600㎡の土砂は約800m下の河合宅及び付属建物を栗島川まで押し流し、一家全員死亡。 | ⑦ |
| 1972 昭和47年7月12~13日 | 降雨 | 豊田市 小原 | 愛知県西三河地方の山間部を中心に崩壊や土石流が多数発生。旧小原村(死者32人)や旧藤岡村(死者22人)での被害が大きかった。 | ⑧ |

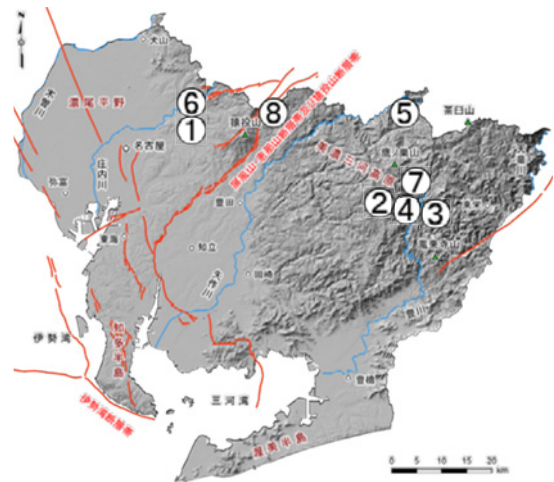


図 1 愛知県の主な土砂災害発生位置図 (丸番号は表 1 と対応)

§ 4. まとめ

愛知県は、規模の大きな歴史地震が多いにもかかわらず、地震を誘因とした大規模な土砂災害の記録は確認されなかった。また、降雨等を誘因とした土砂災害においても、大規模な山崩れ(崩壊土砂量が100万m³以上程度)の事例は確認されなかった。